

北秋田市病院事業経営強化プラン【概要版】

1 基本的事項（計画策定にあたり）

■ 策定の趣旨

- 当院が将来にわたり安定的な医療を提供するために、総務省の「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、当院の地域医療に果たすべき役割・機能を明確化・最適化するとともに、経営強化に向けた取り組みの道筋を示すことを目的とする。

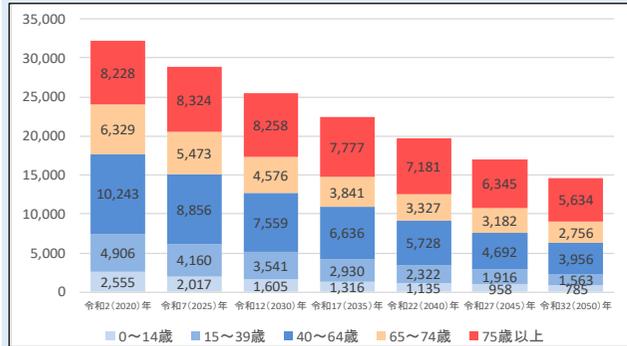
■ 計画期間

- 令和6年度～令和9年度（4年間）

2 北秋田市民病院を取り巻く現状

■ 地域の状況

- 北秋田地域の人口は、令和2年10月1日時点32,261人で、平成27年10月1日時点に比べ、この5年間で3,344人（9.4%）減少。
- 令和7年度における北秋田地域の人口予測は28,830人と減少し、65歳以上人口についても減少となるものの、高齢化率は47.9%に達する見込み。
- 令和7年度に「団塊の世代」がすべて75歳以上となるため、後期高齢者人口が8,324人とピークを迎える。
図 北秋田地域の人口推計



■ 地域の医療供給状況

- 病院2箇所、人口10万人あたり6.2施設と秋田県全体の6.77施設よりやや少ない。一般診療所15箇所、人口10万人あたり46.5施設と秋田県全体62.43施設より少ない状況。
- 病床数464床。一般診療所病床数4床。
- 医師数37人は、人口10万人あたり114.69人と秋田県全体の232.25人に対し約5割と医師不足となり、安定的な医師確保対策が必要。

■ 北秋田市民病院の状況

患者数の推移	〈令和4年度の診療実績〉	
	入院患者数	外来患者数
平成29	70,886	123,985
平成30	65,670	123,148
令和1	64,809	120,019
令和2	64,467	114,233
令和3	67,891	119,936
令和4	60,606	122,820

〈入院〉
一日当たり入院患者数 166人/日
病床稼働率 74.1%
平均在院日数

〈外来〉
一日当たり外来患者数 505.4人/日

3 取り組み内容と目標

■ 役割・機能の最適化と連携の強化

- 地域医療構想を踏まえた果たすべき役割・機能
- 救急医療センター、小児医療、療育医療、へき地医療、結核医療、感染症医療、がん診療、災害拠点病院などを含め、現在、実施している政策的医療を継続する。
- 地域包括ケア病棟の拡充や認知症ケア体制の構築を進める。
- 精神医療の病床活用を含め、協議を継続する。
- 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能
- 医療と介護に関わる多職種連携を強化する。
- 地域包括ケア病棟の拡充、在宅医療体制への支援などを推進する。
- 機能分化・連携強化
- 地域唯一の総合病院であることから、地域の開業医への紹介、逆紹介を積極的に行い、病診連携を強化する。
- 一般会計負担の考え方
- 地域にとって必要不可欠な医療体制の維持確保のために、ある一定の公費負担は今後も必要と考える。ただし、市の負担が過大にならないように努める。
- 政策的医療については、国・県の基準に相当する額を負担する。
- 地域住民の理解のための取組
- 高齢者が住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らすことができるよう、毎年、医療講演会を開催して健康に関する啓発を行う。

■ 医師・看護師等の確保と働き方改革

- 医師・看護師等の確保
- 主な取組として、臨床研修医の受け入れによる若手医師の確保/補助者等「支援業務人材」の確保と定着、育成によるタスクシフティングの推進/柔軟な勤務体制に関する検討/今後の病院運営の在り方や方向性に関する職員教育と経営参画意識の醸成 ほか
- 医師の働き方改革への対応
- 職員の身体的・精神的負担の軽減を図り、安心して働き続けられる職場環境の整備に取り組む。
- 職員の労働時間を適切に管理・把握しながら、業務の効率化を進める。

■ 経営形態の見直し

- 取組状況の検証と見直し検討
- 令和21年度までの指定管理（利用料金制）の基本協定を厚生連と締結していることから、経営形態の見直しは当分の間、行わない。
- 提供する医療体制等については、適時、指定管理者と協議検討するとともに、病床病床についても基本協定を踏まえ協議を継続する。

■ 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

- 感染症対策の徹底
- 新型コロナウイルス感染症への対応の経験を活かし、新型インフルエンザ等発生時におけるBCPに則り院内感染防止対策の再徹底はもとより、患者・利用者へのわかりやすい情報提供に努め、安全・安心な受診環境・療養環境の整備を図る。
- 平時からの医療安全管理体制の充実
- 主な取組として、入院患者とのオンライン面会の機会提供/診療費自動精算機の運用による感染防止対策と患者の利便性向上/オンライン診療の導入検討/感染防護服の安定確保

■ 施設・設備の最適化

- 施設・設備の適正管理と整備費の抑制
- 予防保全型維持管理の視点に立ち、劣化が進む前に計画的に点検や劣化診断を行う。
- 計画的に維持管理・修繕・更新等を行い、ライフサイクルコストの平準化を図る。
- デジタル化への対応
- 情報通信技術（ICT）を活用した業務の自動化・デジタル化による業務の見直し等により、業務の効率化と生産性向上に繋げる。

■ 経営の効率化等

※ 経営指標に係る数値目標（抄）

4)経営の安定性に係るもの	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込み)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	備考
常勤医師数(人)	18.0人	18.0人	18.0人	19.0人	19.0人	20.0人	※歯科医師除く
必要医師充足率(%)	135.6%	135.6%	128.1%	131.0%	132.6%	139.4%	
医師一人あたりの 取扱い患者数	6,859人	6,953人	7,062人	6,829人	6,744人	6,418人	
患者流出率(国保) (%)	53.4%	56.5%	53.6%	53.0%	52.0%	51.0%	※歯科入院除く

- 地域内の医療需要に、ある程度完結的に対応できる体制づくりを目指す。
- 目標達成に向けた具体的な取組
- 当院は県内の二次医療を担う9つの秋田県厚生連病院の一つとして運営されており、その民間的な手法やスケールメリットを活かす。
- 事業規模・事業形態の見直しについては、毎年、年2回の北秋田市民病院運営連絡協議会の場等で検討を行う。
- 専門的な知見を有するコンサルタント等による経営分析や助言を得て経営支援を行う。
- 患者流出率を下げるため、必要な医療機能の拡充を行うほか、市民が身近に感じ、頼れる地域の拠点病院として安心して選んでもらえるように広報活動および接客改善に努める。
- 各年度の収支計画（省略）一般会計等からの繰り入れ金の見直し

	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込み)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収益的収支	(233) 459	(307) 535	(374) 599	(342) 564	(340) 560	(307) 526
資本的収支	(127) 255	(313) 454	(225) 386	(132) 295	(134) 299	(136) 304
合計	(360) 714	(620) 989	(599) 985	(474) 859	(474) 859	(443) 830

注 1 () 内は、うち基準外繰入金額を記入。 (単位:百万円)
2 「基準外繰入金」とは「地方公営企業繰入金について」(総務省通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう。

4 経営強化プランの進捗管理と情報開示

■ 経営強化プランの点検および評価並びに公表

- 例年11月頃に行う北秋田市民病院運営連絡協議会において、経営強化プランの実施状況について点検・評価の報告を行い意見等を受け、評価の客観性を確保し、より効果的な取組に繋げる。
- 市のホームページで公表する。